

# 街路樹

## 学力向上に向けて

### 学力向上のための共通実践

#### 「板書、まとめの時間の工夫」

教科学習を進める中で、児童生徒が「分かった」とか「おもしろい」とか実感するためには、児童生徒の立場に立った教材研究はもとより、子どもの学び方や考え方を育てていくための板書やまとめの時間について、これまでの在り方を振り返って見ることも必要ではないでしょうか。

#### 「板書」の機能として

学習前の状態を知ることができる。  
学習後の自分の変容をとらえることができたり、確かめたりすることができる。

#### 「板書の工夫」

美しい板書  
構造や仕組みを工夫し、視覚的にとらえやすい板書  
教師の個性を生かした板書

#### 「まとめの時間の機能」を活かしたまとめの工夫

まとめるといことは、バラバラだったものを一つにする。  
無秩序だったものに秩序を持たせる。  
広がっていたものを絞り込む。  
経過を整理する…  
…どういう学習だったのか。  
次時へのつながりを持たせる。  
次時への意欲を持たせる。  
補充・補強をする。

## 指導技術

### 効果的な発問とは？

- ・要点をおさえた、分かりやすい言葉で発問する。
- ・子どもたちの発言を生かした発問をする。
- ・思考を促す発問をする。
- ・授業の起承転結を考え、系統的に発問する。

## 授業の改善

### 前回の「導入」につづき今回は「授業の展開」について考えてみましょう

よく見かけることですが、どの教科の授業でも教師の一方的な指導だけの展開や、問題を解くだけの展開だったりすることがあります。これでは子どもたちが課題を自らのものとしてとらえたり、考えたり、解決していこうといった、子ども主体の授業展開とはほど遠いものになってしまいます。

教師は、教科の特性に加え、子どもたちの発達段階を考えて、子どもたちがよりわかるように、よりできるように、より考えるように授業展開を工夫することが重要です。

#### 授業展開のポイント

学習内容を明確にする

展開では、授業の目標をふまえて、教師が個別の課題を提示したり、子どもたち自らが課題を発見したりして、学習活動が主体的・積極的に取り組むようにすることが大切です。

ゆさぶりをかける

授業の展開の過程では、子どもたちの思考を確かなものにし、発展させたりするために教師が子どもたちの考えや発言に対して否定したり、反論したりする、いわゆる「ゆさぶり」をかけ、子どもたちの先入観や概念との葛藤場面をつくり、思考や認識の質を高めていくことも効果的です。

やまばをつくる

一時間の授業において、最も核になるところが「やまば」といわれる場面です。ここでは子どもたち同士や子どもたちと教師がぶつかり合ったり、追究し合ったりするために授業に緊張感が生まれ、子どもたちは学習の充実感や満足感を味わい、分かる喜びや自信を獲得することにつながります。

## ちょつと言

目には見えない「やさしさ・思いやり・心遣い」を育てる教育を大事にしたいですね！

## 研修の感想紹介

### 新任常勤講師研修講座

教師のあるべき姿としてあたり前のことを再確認することができました。

忙しい時間を割いてくださった講義は、どの時間も全て勉強になり、本やテレビ、雑誌等だけでは分からない多くのことを知ることができました。

今日は研修の中で授業において大切なことを聴かせていただき、自分の授業実践の未熟さを改めて見直す機会となりました。

教育とは自分一人で行うものではなく、児童と共に作りあげていくものだ改めて認識しました。

「特別支援教育」について勉強させていただきたいと思っていましたので、その対応の仕方、背景などについてとても勉強になりました。

### 生徒指導主事・新任生徒指導主事研修講座

今までの生活の中で経験したことが頭の中で整理されたような気がしました。

小学校・中学校での具体例を出していただき、考えさせられる時間をいただき、とてもためになりました。

「組織マネージメントと生徒指導」について大変参考になりました。組織としてチームを組みサークルの中心となって今後とも考えて行動していきたいです。

生徒指導、特別支援教育は当たり前ではあるが、互いに協力しあい組織的に対応することが大事であるということを痛感しました。

虐待の早期発見のチェックポイントの活用や組織を生かし機能させるべくマネージメントを図っていきたいと思います。